◎中学生の部

その他の良い作品

向日葵

南中学校　一年
青木　美音

毎日通る通学路
そこには一輪の向日葵がある
その向日葵を見るたびに
「もう夏だ」
と感じる

日差しを浴びてクタクタになっている下校時
向日葵は誰よりも元気で真っ直ぐだった
僕よりも強くて大きい
そんな向日葵がかっこよかった

僕はいつか向日葵を超えるんだ
強さも大きさも　心も体も

そして向日葵みたいに前を向き
みんなに元気をあたえたい

明日も通る通学路
明日も会える　向日葵と

挨拶の愛

南中学校　二年
小俣　明日香

おはよう　ありがとう　ごめんなさい
いただきます　ごちそうさま　さようなら
挨拶にはそれぞれ意味がある
教室に入ったら友達に
「おはよう。」
勉強を教えてくれた友達に
「ありがとう。」
友達にぶつかってしまった
「ごめんなさい。」
給食を作ってくれた方々に
「いただきます。ごちそうさま。」
一日の終わりに先生に
「さようなら。」
学校に行くだけでたくさんの挨拶を使う
挨拶をすると
羽生の自然のように
相手と自分の心と体が明るくなる
なぜだろう

それは　自分の素直な思いが
込められているからだ
少しでも思いが欠けると
雨天の羽生の自然のように　心が暗くなる
挨拶をする時の気持ちと羽生の自然は
比例している
一日でも明るい羽生の自然が見られるよう
どんな時　物事でも
思いを込めてあいさつをしよう
そうすれば　良い一日を迎えられる

そんな挨拶が私は好き
挨拶をして笑顔になるあの瞬間が好き
挨拶で明るい羽生の自然を見ることが好き
挨拶が明るい羽生を教えてくれた
「ありがとう。」

先輩の背中

西中学校　二年
片貝　篤志

数ヶ月前までは部活をしていた先輩
そんな先輩の背中はかっこよかった
だがそんな先輩は引退してしまった
一年生のときから見続けていた先輩の背中
今では部活で会うこともなくなり
二年生が部を引っ張っている
でも一年生に
二年生のかっこよさを見せられているか
と最近不安である
先輩のようなかっこいい背中になりたい
こんな想いがある
だからこそ部活を続けられている
約一年後には私も部活を引退する
それまでに私の憧れでもある
先輩のかっこいい背中
その背中に追いつけるように
これからも私は部活を続け
かっこいい背中になってみせる

たくさんの優しさとあたたかさ

南中学校　一年
神山　夕海

おはよう　いってらっしゃい
登校するとき
近所の人に言われる
　私はこれで　頑張れる
朝から　こんなにも
あたたかいあいさつが　もらえたから

おかえり　おつかれ様
下校するとき
見守り隊の人に言われる
　私はこれで　元気がでる
とても　疲れていたのに
　まるで
疲れが　なかったかのように

　羽生市には
たくさんの　優しさとあたたかさが
あふれている
　私も　この優しさを
　近所の人や　見守り隊の人のように
　みんなにたくさん
　与えられたらいいな

真夏の学校

西中学校　三年
金原　奈々

最上級生になった
不安もたくさんある
でも毎日友達と話すことは楽しい
何気ない会話などいつもできるのは
ここにいる友達のおかげ
毎日楽しみに学校に通う

放課後に部活がある
毎日暑い日も雨の日も行う
６月の最後の大会
「引退」という言葉を心に刻んだ
苦しくて悲しくて悔しい大会だった
でもみんなと協力して大会に挑めた
だから県大会に行けた
県大会は自分の目標を持って走った
これで引退だと思った
でもこれから駅伝がある
先生が選んでくれた学校代表のメンバー
学校代表であることを誇りにしている
残されたわずかな時間
駅伝がこのメンバーでできる最後の大会
最後まで諦めない
諦めなかったからこその喜びを感じたい
そして最後に有終の美を飾りたい

受験生

西中学校　三年
小林　由唯

蝉が鳴いている
私は灼熱の中家を出る
そして友達との待ち合わせ場所に行き
一緒に塾に行く
それを毎日繰り返す
今年の夏休みは夏休みではない
そうみんなに言われてきた
いつもの何倍も
勉強しなくてはならない
今までの私なら諦めるかもしれない
でも今年は逃げずに
挑戦しなければならない
受験生という自覚を持って
自分の夢や未来へ向かって
頑張りたい

大切な一日

西中学校　一年
坂本　心愛

私の普段の日常は
ほぼ毎日テニスをする日々

次部活に行く時
もっと上手になっているよう
毎日自主練を頑張っている

自主練に行く時の車の中では
また同じ失敗を犯さないように
前回の課題をもう一度確認する
今日また成長できるように
ちゃんと確かめてから行くのが私のルール

今日また練習をすれば
次の課題が出てくる
何ができなかったのか
帰りの車の中で一人反省会
もうこの失敗はしないように
何度も今日を振り返る

いつも同じ夜の帰り道も
その日によって全然違う

母と楽しくお喋りをしてもいいし
ちょっと一人で考え事をしてもいい

そんなちょっとした時間も
私にとっては大切な思い出

仲間

西中学校　一年
須永　陽太

ぼくは野球をやっている
野球はチームスポーツ
だから仲間をおもいやり
仲間とはげましあったり
仲間と全力でプレーしたり
仲間と一緒にいると
とても楽しい

ヒットを打ったら
「ナイスバッティング」
ファインプレーをしたら
「ナイスプレー」
盗塁をきめたら
「ナイスラン」
とコーチや仲間が
ほめてくれる
ミスをしてしまっても
「ドンマイ」
とコーチや仲間が

はげましてくれる
チームスポーツのいいところは
ほめあったり
はげましあったり
協力しあったり
人と人とのきょりを
どんどんちぢめていって
仲がふかまるところ
だからぼくは
仲間を大切にしていきたい

昨日の自分に勝つために

南中学校　二年

関根　伶

想像してみる
明日の自分
今日の自分より
少しでも高く翔べる自分を

想像してみる
自信を持って
相手コートへサーブできる
明日の自分を

想像してみる
辛く苦しく感じる事も
すべての事が
未来の自分へ
つながっている事を

挑むは昨日の自分
一つでも昨日の自分より

勝るものがあるように
少しでも
優しく胸をはれる
自分でいられるように

高校入試

西中学校　三年
竹尾　悠汰

悩んでいる
進路のことで考えている
友達は進路を決めている
だけど、
まだ自分は決まってない
悩んでいる
最初で最後の高校入試
進路は自分で決める
たとえ、
友達にすすめられても
家族にすすめられても
最後は自分で決断する
今年の夏は去年の夏とはちがう
今年は楽しい夏休みではない
勉強にはげむ夏
友達といっしょに遊びたい
家族とどこかに行きたい
しかし、できない
これからも勉強を頑張る

広く大きな利根川
久しぶりに見に行きたいな

給食と私

東中学校　二年
西野　嘉人

私は　給食が大好きだ
今まで　給食を残したことがない
朝起きた瞬間から　朝食より給食のことで
頭がいっぱいだ
給食当番は　たくさん盛り付けてくれるだ
ろうか
おかわりは何回できるだろうか
デザートじゃんけんで勝てるだろうか
登校中　自転車をこぎながら　脳内でシミ
ュレーションする
特に　大好きなメニューが出る日は　朝か
ら気合いが入る
からあげ
豚汁
ごぼうサラダ
わかめごはん
コーヒー牛乳
早く給食の時間になって欲しい

「手を合わせてください」
「いただきます」
一口　一口　丁寧に味わう
おいしい
おいしすぎる
寝不足でも
朝のニュースの占いで　今日は最下位でも
小テストで悪い点数をとっても
給食を食べれば　嫌なことは忘れてしまう
給食には　不思議なパワーがある
中学校を卒業したら　給食が食べれなくな
る
もっともっと給食を食べたい

無個性

南中学校　二年
橋本　その

通学路
毎日すれ違う小学生
色とりどりのランドセルが眩しい
私たちの個性のない
ランリュックは
早速色褪せている

絆創膏だらけの膝
たくさん転んだのかなぁなんて思うけど
私も走っては走っては転んでいた

黄色い帽子に
伸びきった黒いゴム

統一されていない靴
私も黒とピンクの靴を履いていた気がする
ただ白いだけの靴を履いている子なんて居な
かった
カラフルでこれも眩しい

「早く中学生になりたい」
小学生たちに言われた
中学生は楽しい
楽しいはずだけど
なんだか何かが欠けている

個性が無くなる
気がする
大人になるため
集団の秩序を守るため
統一していく
鞄も髪型も
靴も服装も

私と正反対の方向へ
進んで通り過ぎる小学生は
眩しかった。

蝉

西中学校　一年
山口　きく

小さい頃
私は蝉のぬけがらを集めることが
好きだった
「私　頑張ったよ」
と蝉が誇らしげに
言っているみたいで
そのぬけがらは
勲章のように見えた

そんな蝉は
今も
家の近くで
通学路で
私に存在を見せつけるかのように
鳴き続けている

私も
勲章はもらえなくても
「頑張った」と
胸を張って言えるような
人間になりたい
蝉のように